

# 「更に」

会長 清水晶子 (中央区立有馬小学校長)



「自己有用感を高める望ましい集団活動」を研究主題として今年度2年目になります。

児童が、人のために役に立った、人から認められた、という経験や実感は、これからの自分の生活をよりよく創り出そうとする主体的な姿に繋がると感じます。

さて、平成29年3月に、新学習指導要領が告示され、教科書のない特別活動は、来年度から実施されます。新学習指導要領は、積極的に社会に参画する力をこれまで以上に重視しています。また、集団活動に自主的・実践的に取り組んで他者と協働し、よりよい人間関係を作り、自分の生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を目指しています。

更に当番活動など働く意義を理解し、社会の一員として役割を果たすために考えて行動するなどの「キャリア形成と自己実現」につなげるための学級活動(3)が示されました。

そこで、今年度、本研究会は、昨年度設定した研究テーマが新学習指導要領の目標が目指している児童像に迫るものだと確認し、今年度も研究4部会が昨年度の成果と課題を踏まえながら、研究を深め、広めること、また、新学習指導要領研究プロジェクトチームを立ちあげ、学級活動(3)について、具体的な方法・手順を東京都公立小学校に提示することとしました。プロジェクトチームでは、学級活動(3)についての理解を深め、1単位時間の指導計画の実践例を作成することとしました。

来る平成30年2月23日(金)中央区立有馬小学校において「学級活動部」「児童会活動部」「クラブ活動部」「学校行事部」のそれぞれ研究部が、自己有用感を高めるため行った実践の研究成果を発表するとともに今年度は、加えて、学級活動(3)の授業も公開いたします。

東京都小学校特別活動部員、「なすことによって学ぶ」の基本原則通り、実践を通して新学習指導要領の理解を深め、研究授業をとおして、学んだ事を分かりやすくお伝えできればと思っています。

ご多用とは存じますが、是非ご参会頂き、ご意見、ご感想などを賜りますようお願い申し上げます。

# 都小特活

第101号

東京都小学校特別活動研究会

平成29年9月発行

発行人  
清水晶子

## 本年度の研究の基調

研究部長 佐野 匡 (練馬区立豊玉第二小学校長)

### 1 研究主題

「自己有用感を高める望ましい集団活動」

### 2 主題設定の背景及び理由

昨年度より、本研究主題の下での研究を始め、1年目においては次の3点の成果が確認できた。

- (1) 人間関係形成力を高める指導の手だてとして有効であったこと
- (2) 個の成長、集団作りの指導の手だてとして有効であったこと
- (3) 活動の可視化が有効であったこと

これまでの手だてが新しい研究主題においても有効である事が確認できた一方、次のような課題が明らかになった。

○より有効な手だての具体例を挙げ、さらに検証していくこと。

○研究成果を生かした実践をより多くの東京都公立小学校に広めていくこと。特に学校全体で、発達段階を踏まえながら、共通のめあての設定、事前の取組み、事後の振り返りを行い、児童の変容について評価する重要性を広めていくこと。

つまり、「有効性の検証」と「学校として特別活動を進めていくための方策」を含めて、研究を進めていくことである。また、新しい学習指導要領実施への動きが進んでいる中、東京都の特別活動の推進に当たり、本研究会として学習指導要領の趣旨を理解し、発信していく必要がある。

以上の事から、本年度も引き続き研究主題を「自己有用感を高める望ましい集団活動」とする。あらためて、本研究会の目指す自己有用感は、人の役に立った、人から認められた、という、自分と他者(集団や社会)との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで育まれる、自己に対する肯定的な評価のことである。そして、特別活動で培った力を学級や学校の中で収束されるのではなく、その先の社会参画につなげていくことや、一人一人はみんな違うことを前提にしながらも、合意形成を進めるよさを知り、その後の社会生活に生かしていくために、汎用性のある活動を展開していくことが求められる。先述した、手だての有効性の検証と、学校全体として特別活動を進めていくための方策、新しい学習指導要領の趣旨の発信を含め、2年目の研究を進めていく。

### 3 研究の進め方

授業実践を中心に据えた実践研究  
実践を裏付ける理論構成(深める)  
汎用性・再現性のある提案(広める)  
プロジェクトチームによる新しい学習指導要領の理解・分析

### 4 共通の研究の視点

可視化	(構造化、操作化)
振り返り	(自己評価と相互評価)
手だての有効性	(検証)
学校全体での組織的取り組み	(位置づけ方)

## 学級活動部

部長 藤田 寛樹 (文京区立湯島小学校)

◎ 活動部主題 ◎

「もち味を生かし、  
互いに認め合い高め合う学級活動」

### 1 主題設定の理由

昨年度から主題を「もち味を生かし、互いに高め合う学級活動」と設定し、研究をすすめてきた。自己有用感を高めることを意図した可視化に取り組んだことで、児童一人一人の活躍の場が広がったり、「人の役に立った」と児童に実感させたりすることができたなどの成果がみられた。学級活動部で積み上げてきた手だてを重ねることで、児童が自分たちで学級会をすすめられるようになり、自己有用感の向上につながっている。

しかし、自己有用感の評価については、活動部内で統一するに至らず、学級全体や児童一人一人の実態を把握する方法や児童の変容を評価する基準などを提案していく必要がある。

今年度は、昨年度の研究を通して明らかになった課題を

含め、自己有用感を高めるための可視化や互いに認め合い、高め合うための振り返りに視点を当てて研究をすすめる。

### 2 研究の視点

- ①自己有用感を高めるための可視化の工夫
- ②互いに認め合い高め合うための活動の充実

### 3 検証授業の予定

- 9月21日(木) 東久留米第六小学校  
活動内容(1)  
酒井 博子 教諭(3年)
- 10月27日(金) 文京区立湯島小学校  
活動内容(1)  
藤田 寛樹 主任教諭(4年)
- 11月16日(木) 大田区立馬込小学校  
活動内容(1)  
金澤 勇輝 教諭(6年)
- 12月1日(金) 江戸川区立第六葛西小学校  
活動内容(1)  
奥山 優子 教諭(5年)

## 児童会活動部

部長 大藏 久美 (小平市立小平第六小学校)

◎ 活動部主題 ◎

「互いを認め合う  
異年齢交流を深める児童会活動」

### 1 主題設定の理由

全体研究主題「自己有用感を高める望ましい集団活動」を受け、児童会活動部では「児童会活動における自己有用感」とは何かを考えた。

自己有用感を「自分は必要とされている」「自分は役に立っている」と思える感情と定義し、それは他者に認められてはじめて得られるものであると考えた。児童会活動では、学年や学級を超えた異年齢集団での様々な活動が行われる。その中で児童の自己有用感を高めるためには、下級生からの「あこがれ」の気持ちや上級生の「思いやり」の気持ちが必要である。下級生の「楽しかった!」「かっこいいなあ!」というあこがれの気持ちが上級生に伝わることで、上級生は「アイデアを出してよかった!」「次もいろいろ考えてみよう!」という気持ちになり、自己有用感が高まる。そのため、「あこがれ」や「思いやり」の気持ちを可視化して伝えることや、場の設

定を工夫することが必要である。「あこがれ」と「思いやり」のスパイラルを意識した異年齢交流を積み重ねることで、自己有用感が育ち、高まりよりよい人間関係が築けると考えた。

そこで、研究主題を「互いを認め合う異年齢交流を深める児童会活動」と設定した。

今年度も以下のことに留意して研究を進めることにした。

- 「児童の発意・発想を生かした活動」の場を保障する。
- 「計画」から「振り返り」までの活動を一連の活動としてとらえる。
- 児童会活動の特質である「異年齢の人間関係」に焦点を当てる。

### 2 研究の視点

- ①自己有用感につながる「あこがれ」と「思いやり」の可視化の工夫。
- ②『メッセージボード』を継続し、手だての有効性をさぐる。
- ③学校全体で異年齢交流を組織的に取り組み、活動を広める。

### 3 検証授業の予定

- 11月2日(木) 葛飾区立南奥戸小学校(代表委員会)  
畑 理恵 主任教諭・石川 真理 教諭
- 12月12日(火) 小平市立小平第十二小学校(代表委員会)  
佐藤 真美 主任教諭・和田 翔太 教諭・酒井 春菜 教諭

### クラブ活動部

部長 中本 健太郎 (江戸川区立第四葛西小学校)

◎ 活動部主題 ◎

「個性を発揮し、互いに認め合う  
クラブ活動」

#### 1 主題設定の理由

本研究部では、昨年度に引き続き、本部会の研究主題を「個性を発揮し、互いに認め合うクラブ活動」と設定し、研究を深めている。

クラブ活動の目標には、「よりよい人間関係の形成」「自主的実践的な態度を育てる」と併せて「個性の伸長」が示されている。本研究部では、「個性」とは、集団の中でよりよく発揮され、他者と協調できる個であると考え。例えば、「運動が得意」「司会が上手」といった秀でた技能や得意なことと、「思いやりがある」「縁の下でみんなを支えられる」「粘り強い」といった人柄など、集団の中で発揮される多様なよさを、個性として捉えている。児童が、望ましい集団活動を通して、互いの個性に気づき、その多様なよさを集団の中で認め合い発揮することで、自己有用感が高

まると考える。

自己有用感の高まりに焦点を当てた研究を進めるに当たり、児童一人一人の存在が肯定的に集団に受け入れられるような、望ましい集団活動が展開されるようにしたい。そのためにも、児童が様々な活動の場面で、より幅広い視点で、自他の個性に気付けるような手だてを考えたい。

#### 2 研究の視点

- ①望ましい集団活動をよりよく展開する可視化の工夫
- ②自他の個性に気づき、認め合う振り返りの工夫
- ③手だての有効性の検証
- ④学校全体での組織的な取り組み

#### 3 検証授業の予定

- 10月16日(月) 葛飾区立本田小学校  
(スポーツクラブ) 山口 哲郎 教諭
- 10月30日(月) 足立区立千寿第八小学校  
(なわとびクラブ) 高橋 信行 教諭  
大野 和代 指導教諭
- 11月16日(木) 世田谷区立中町小学校  
(テーブルゲーム&カルタクラブ) 藤井 美貴子 主任教諭

### 学校行事部

部長 原田 恵子 (中央区有馬小学校)

◎ 活動部主題 ◎

「自分の役割やよさに気づき、  
互いに認め合い、活かす学校行事」

#### 1 主題設定の理由

自己有用感を高めるためには、学級や学年集団の中で、活かすことのできる自分のよさや役割を認識できていることが大切である。自分のよさを知るためには、児童一人一人の力を発揮できる場があること、発揮した力を認め合える場があることが必要である。そして、そのよさをみんなに認めてもらえているという安心感があってこそ、自分の力を発揮できる。自己有用感を高める望ましい集団になるために、一人一人のよさを互いに理解し合い、その力を活かしていかなければならない。学校行事では、自分や友達のがんばりやもっている力を活かす場を設定しやすい。より効果的に自己有用感を高めることができる手だてを模索し、実践していくことをねらい、このテーマを設定している。

今年度は、本研究主題での研究二年目である。昨年度ま

で積み上げてきた手だてを重ねながら、各行事の実践を研究していくとともに、学校行事における自己有用感を高める場や具体的な手だてを検証していく。また、本研究会全体の視点を受け、評価の観点を見直し、改善するとともに、効果的な評価の在り方についても研究していく。

#### 2 研究の視点

- ①行事のつながりの中で、活動の見通しや、自分の目標をもつことができる指導の工夫
- ②自己有用感を感じられる振り返りの場や観点の工夫
- ③自己有用感を高めるための可視化の工夫と活用

#### 3 検証授業の予定

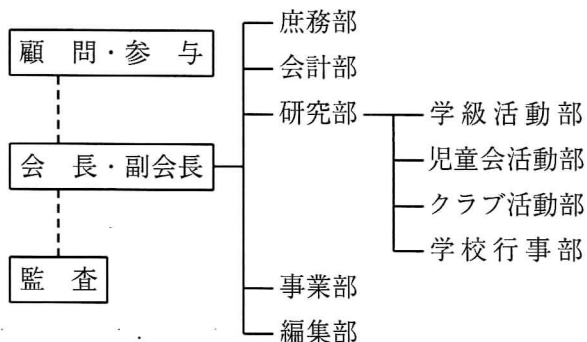
- 7月7日(金) 目黒区立東山小学校  
宿泊行事(5年・事後指導)  
平山 かおり 主任教諭
- 10月10日(火) 清瀬市立清瀬第三小学校  
運動会(2年・事後指導)  
高橋 創 教諭
- 10月27日(金) 中野区立平和の森小学校  
学芸会(5年・事前指導)  
宮口 大介 主任教諭

# 平成29年度 役員・部員名簿

◎校長 ○副校長 ◇主幹教諭 ◆指導教諭 □主任教諭

役職名	氏名	地区・校名	役職名	氏名	地区・校名
会長	清水晶子	◎中央区・有馬	研究部 副部長	小山晴美	◇豊島・池袋第三
副会長	小島みつる	◎北・稲田	事業部 部長	新井正一	◎新宿・落合第三
〃	赤羽根 智	◎東久留米・第二	〃 副部長	田村亜紀子	○東大和・第六
〃	木田明男	◎小平・小平第十二	〃 〃	佐藤千晴	○瑞穂・瑞穂第三
庶務部 部長	中村和弘	◎江東・毛利	〃 部員	田所貴美子	◇中野・新山
〃 副部長	伊藤幸一	◎東久留米・南町	〃 〃	斉藤光代	□足立・東綾瀬
〃 部員	中村絵美	□江東・毛利	〃 〃	本橋 治	小平・小平第十二
〃 〃	吉田和子	□江東・毛利	〃 〃	高野慶文	三鷹・第七
〃 〃	平山かおり	□目黒・東山	〃 〃	梶井 綾	新宿・早稲田
会計部 部長	宮野いずみ	◎江東・第二砂町	編集部 部長	石田孝士	◎世田谷・喜多見
〃 副部長	木村夏子	◎世田谷・松沢	〃 副部長	篠 達司	◎足立・足立
会計(学級活動)	鈴木 聡	墨田・業平	〃 〃	大野正人	○練馬・大泉北
会計(児童会)	畑 理恵	□葛飾・南奥戸	〃 部員	藤井美貴子	□世田谷・中町
会計(クラブ)	瀧上 怜子	品川・大井第一	〃 〃	酒井博子	東久留米・第六
会計(学校行事)	四本真美	□大田・嶺町	学級活動部長	藤田寛樹	□文京・湯島
研究部 部長	佐野 匡	◎練馬・豊玉第二	児童会活動部長	大藏久美	◆小平・小平第六
〃 副部長	岡野範嗣	◎大田・東六郷	クラブ活動部長	中本健太郎	目黒・鷹番
〃 〃	氣田真由実	◎板橋・成増	学校行事部長	原田恵子	□中央・有馬
〃 〃	吉田有子	○清瀬・清瀬第三	会計監査	梶 千枝子	◎品川・旗台
〃 〃	神谷 なおみ	○江戸川・二之江	〃	持田裕代	◎新宿・四谷

## [組織図]



## (編) (集) (後) (記)

会報101号をお届けします。  
校務ご多用のところ、ご協力いただき  
ありがとうございました。

(石田、篠、大野、藤井、酒井)

